

★TOPP

Q33 Q34

98-188789/17

★JP 10045156-A

Stopper for liquid packing container - has tubular part on whose upper part outer edge is slightly inclined outside and is made thick to which flange portation of cap is attached

TOPPAN PRINTING CO LTD 96.07.31 96JP-202080

(98.02.17) B65D 47/36, 47/06, 77/06

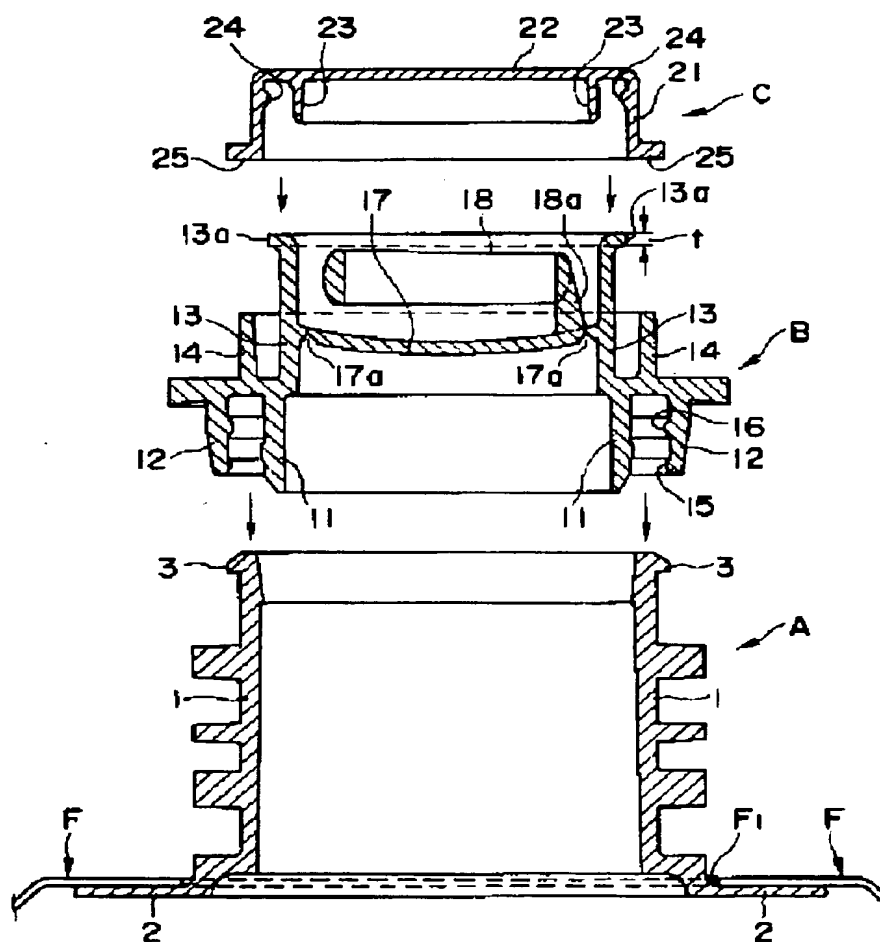
The stopper (B) is press-fitted to upper edge part of a spout (A) formed at pouring part (F1) of a liquid packaging bag (F). A tubular part (13) is provided on whose bottom portion an inner cylinder part (11) is formed. An outer cylinder part (12) covers the inner cylinder part.

First and second ring-shaped ribs (15,16) are formed on inner peripheral surface of the outer cylinder, which are connected to a ring-shaped rib (3) of the spout, at the time of press-fitting. An outer edge (13a) of the tubular part is slightly inclined outside and is thickened. A flange portation (25) of a cap (C) is attached to the outer edge.

ADVANTAGE - Prevents stain generation due to dripping of fluid. Fills effectively.

(Opp Dwg.No.1/3)

N98-150350



EL59461002445

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-45156

(43) 公開日 平成10年(1998) 2月17日

(51) Int.Cl.⁸

B 6 5 D 47/36

47/06

77/06

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 5 D 47/36

47/06

77/06

技術表示箇所

D

G

K

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平8-202080

(22) 出願日

平成8年(1996) 7月31日

(71) 出願人 000003193

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1丁目5番1号

(72) 発明者 林田 徳生

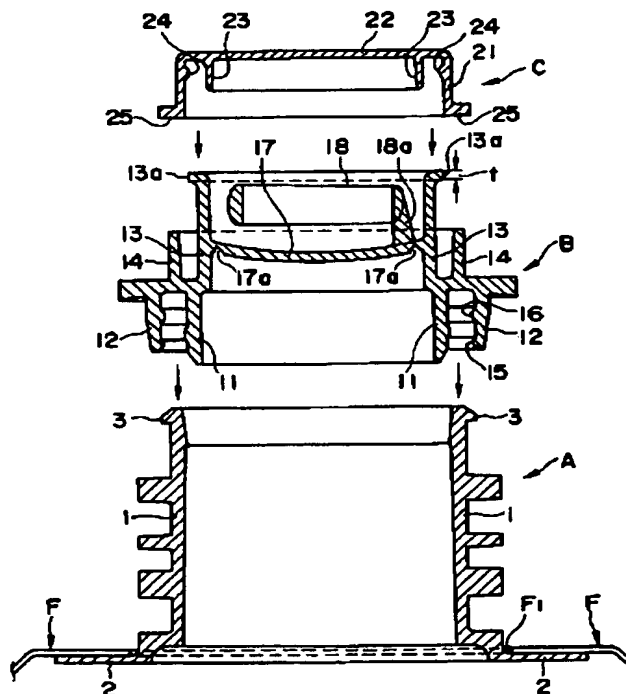
東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(54) 【発明の名称】 液体包装用容器の口栓

(57) 【要約】

【課題】注出口栓から液体を注出する際の液切れを良好にするための液切れ形状先端部の形状を改良して手指を怪我する危険を回避し、また注出口栓の先端部の液垂れを受け止め回収できるようにするとともに、液体充填時にスパウトからオーバーキャップ及び注出口栓を素早く取り外しできるようにすることにある。

【解決手段】スパウトAは、筒部1とその下端部に接合用のフランジ部2とその上端部に外側方に突出するリング状リブ3を備え、注出口栓Bは、下部に内筒部11及び外筒部12と上部に注出用筒部13を備え、前記注出用筒部13の上端に湾曲しながら外側に向かって開放する液切れ形状先端部13aが形成され、該液切れ形状先端部13aの外周が厚さ t の肉厚を以て形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】合成樹脂製の柔軟性フィルムを主体とする液体包装用バッグFに孔設した孔設部F1に接合シールにて取り付けられるスバウトAと、該スバウトAの上端部に嵌合にて取り付けられる注出口栓Bと、該注出口栓Bの上端部に嵌合施蓋されるオーバーキャップCとにより構成され、スバウトAは、筒部1とその下端部に接合用のフランジ部2とその上端部に外側方に突出するリング状リブ3を備え、注出口栓Bは、下部に内筒部11及び外筒部12と上部に注出用筒部13を備え、前記注出用筒部13の上端に湾曲しながら外側に向かって開放する液切れ形状先端部13aが形成され、該液切れ形状先端部13aの外周が肉厚に形成されていることを特徴とする液体包装用容器の口栓。

【請求項2】請求項1記載の液体包装用容器の口栓において、前記オーバーキャップCは筒部21と天板部22を備え、該筒部21の内周面にリング状リブ24を備え、天板部22の下面と前記リング状リブ24との間に前記注出口栓Bの液切れ形状先端部13aを係合固定することを特徴とする液体包装用容器の口栓。

【請求項3】請求項1又は請求項2記載の液体包装用容器の口栓において、前記注出口栓Bは、その注出用筒部13にその下部外周を取り巻く液垂れ防止用の外周リング部14を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓。

【請求項4】請求項1乃至請求項3記載の液体包装用容器の口栓において、前記注出口栓Bは、その下部に形成した外筒部12の下部内面に第1リング状リブ15と、その上部内面に第2リング状リブ16を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓。

【請求項5】請求項1乃至請求項4記載の液体包装用容器の口栓において、前記注出口栓Bの上部に形成された前記注出用筒部13の筒内に、該注出用筒部13を封鎖するプルトップ17とプルリング18を備える液体包装用容器の口栓。

【請求項6】請求項1乃至請求項5記載の液体包装用容器の口栓において、前記オーバーキャップCの天板部22の下面に、下向きに突出する密封用リング23を備える液体包装用容器の口栓。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、バッグインボックスなどバッグ状の液体包装容器に使用される液体内容物の充填用・注出用の口栓に関する。

【0002】

【従来の技術】バッグ状の液体包装容器の代表的なバッグインボックスは、合成樹脂製の柔軟性フィルムを主体とする液体包装用バッグ内に液体内容物を充填した後に、ダンボール箱など外装用や保護用のケース内に装填した容器であり、液体包装容器として各方面で広く使用

されるようになっている。

【0003】そして、合成樹脂製の柔軟性フィルムを主体とする液体包装用のバッグ（軟質フィルム製の袋状容器）には、一般的に、液体充填密封用及び液体注出取出し用の口栓が取り付けられ、このバッグ用の口栓は、バッグの1個所に孔設部を設けて、その孔設部に対してバッグのフィルム表面側若しくは裏面側より、射出成形加工された合成樹脂製のスバウト（液体充填用の筒状体として機能する部品）が熱融着や接着剤を用いて接合シールして取り付けられる。

【0004】そして、該スバウトの上端部には、プルトップ（容器の容易開封栓）が設けられた筒状の注出口栓（液体取り出し注出用ノズルとして機能する部品）が一体的に嵌合にて取り付けられ、該注出口栓の上端部に、オーバーキャップが嵌合により施蓋される。

【0005】上記バッグ内に液体内容物を充填する際は、前記スバウトに注出口栓を一体化する前に、該スバウトからバッグ内に液体を充填し、充填後は、前記注出口栓及びオーバーキャップが施蓋されて、液体内容物は液漏れのない密封状態となる。

【0006】上記スバウトと注出口栓とオーバーキャップとのスリーパーツからなる口栓を取り付けたバッグなど液体包装容器製品の充填工程への納入出荷においては、予め口栓部分の前記パーツを嵌合一体化した状態で納入される。

【0007】そして、充填作業においては、スバウトからオーバーキャップ及び注出口栓を取り外した後に、スバウトよりバッグ内に液体充填を行っている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】液体包装用のバッグに使用される上記口栓は、前述したように、一般的にスバウトと注出口栓とオーバーキャップとのスリーパーツからなるものであり、液漏れのない状態で施蓋されるような構造であることは重要である。

【0009】その他に、液体包装用のバッグに使用される上記口栓は、注出した液体が注出口栓の先端部に付着して液垂れが発生したり、液垂れによる汚損が生じないように、液体を注出する際に液切れを良好にする必要がある。

【0010】そこで、注出口栓の先端部の形状を液切れが良好となるような形状に工夫した口栓の改良がされおり、例えば、前記注出口栓の先端部に湾曲しながら外側に向かって開放するような形状の液切れ形状先端部を設けたものがあるが、その先端部の外周が鋭角となるため、手指を怪我する危険が心配される。

【0011】また、注出した液体が注出口栓の先端部に付着して液垂れを生ずるような場合に、その垂れた液体が、容器の側面に落下したりして汚損しないように、液垂れを受け止めて回収する工夫も必要となる。

【0012】また、前述したように、予め口栓部分のパ

10

20

30

40

50

ーツを嵌合一体化した状態で納入出荷された液体包装用の容器から、充填作業において、容易に素早くオーバーキャップ及び注出口栓を取り外しできるように工夫することも作業能率の向上のために必要となる。

【0013】本発明は、液体包装用容器の口栓において、注出口栓から液体を注出する際の液切れを良好にするための液切れ形状先端部を改良して、手指を怪我する危険を回避し、また注出口栓の先端部の液垂れを受け止め回収できるようにするとともに、液体充填時にスパウトからオーバーキャップ及び注出口栓を素早く取り外しできるようにすることにある。

【0014】

【課題を解決するための手段】本発明の第1の発明は、合成樹脂製の柔軟性フィルムを主体とする液体包装用バッグFに孔設した孔設部F1に接合シールにて取り付けられるスパウトAと、該スパウトAの上端部に嵌合にて取り付けられる注出口栓Bと、該注出口栓Bの上端部に嵌合施蓋されるオーバーキャップCとにより構成され、スパウトAは、筒部1とその下端部に接合用のフランジ部2とその上端部に外側方に突出するリング状リブ3を備え、注出口栓Bは、下部に内筒部11及び外筒部12と上部に注出用筒部13を備え、前記注出用筒部13の上端に湾曲しながら外側に向かって開放する液切れ形状先端部13aが形成され、該液切れ形状先端部13aの外周が肉厚に形成されていることを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0015】次に本発明の第2の発明は、上記第1の発明の液体包装用容器の口栓であって前記オーバーキャップCは、筒部21と天板部22を備え、該筒部21の内周面にリング状リブ24を備え、天板部22の下面と前記リング状リブ24との間に前記注出口栓Bの液切れ形状先端部13aに係合固定することを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0016】次に本発明の第3の発明は、上記第1又は第2の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bは、その注出用筒部13にその下部外周を取り巻く液垂れ防止用の外周リング部14を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0017】次に本発明の第4の発明は、上記第1乃至第3の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bは、その下部に形成した外筒部12の下部内面に第1リング状リブ15と、その上部内面に第2リング状リブ16を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0018】次に本発明の第5の発明は、上記第1乃至第4の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bの上部に形成された前記注出用筒部13の筒内に、該注出用筒部13を封鎖するプルトップ17とプルリング18を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0019】次に本発明の第6の発明は、上記第1乃至第5の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記オーバーキャップCの天板部22の下面に、下向きに突出する密封用リング23を備えることを特徴とする液体包装用容器の口栓である。

【0020】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を、以下に詳細に説明する。

【0021】[第1の発明] 第1の発明は、図1の液体包装用容器の口栓を説明する側断面図に示すようにスパウトAと、注出口栓Bと、オーバーキャップCとから構成される。

【0022】スパウトAは、筒体1と、筒体1の下端に、バッグ本体Fに孔設された孔設部F1の周端部の裏面（バッグ本体Fのバッグ内面に該当）若しくは表面（バッグ本体Fのバッグ外面に該当）に重ね合わせて接合されるフランジ部2と、上端に外側方に突出するリング状リブ3を備える。

【0023】注出口栓Bは、下部に内筒部11と、その外側に外筒部12を備え、上部に注出用筒部13を備え、前記外筒部12の内周面にはリング状リブ16を備える。

【0024】前記注出用筒部13の上端（先端部）に湾曲しながら外側に向かって開放する液切れ形状先端部13aが形成されており、該液切れ形状先端部13aの外周は少なくとも鋭角ではない、所定の厚さとなるような肉厚に形成されている。

【0025】前記厚さは、特に限定されないが、後述するオーバーキャップCの嵌合部に対して嵌合できる程度の厚さであり、例えば、1～3mm、3～5mm、あるいは5～7mm程度が適当である。

【0026】オーバーキャップCは、筒体21と、該筒体21の上端に連続する天板部22により形成され、また、筒体21の下端には、必要に応じてフランジ部25を備えている。

【0027】スパウトAは、その接合フランジ部2にて、バッグ本体Fに孔設された孔設部F1の周端部の裏面（バッグ本体Fのバッグ内面に該当）若しくは表面（バッグ本体Fのバッグ外面に該当）に重ね合わせて、熱融着若しくは接着剤にて密着接合される。

【0028】バッグ本体Fに接合されたスパウトAは、その上端に注出口栓Bが嵌合して一体化される。

【0029】スパウトAの上端のリング状リブ3を、注出口栓Bの下部の内筒部11と外筒部12との間に嵌入させ、リング状リブ3をリング状リブ16の上部まで差し込むことにより嵌合して固定され一体化される。

【0030】注出口栓Bは、その前記注出用筒部13の上端（先端部）に、オーバーキャップCが嵌合して施蓋される。

【0031】前記注出用筒部13の上端（先端部）に湾

5

曲しながら外側に向かって開放する液切れ形状先端部13aを、オーバーキャップCの筒部21の内周面に沿って差し込み、天板部22の下面に当接するまで差し込み嵌合して固定され一体化される。

【0032】〔第2の発明〕次に第2の発明は、図1に示すように、上記第1の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記オーバーキャップCは、筒部21と天板部22を備え、該筒部21の内周面にリング状リブ24を備える。

【0033】オーバーキャップCを、注出口栓Bに施蓋した際は、図3に示すように、天板部22の下面と、前記リング状リブ24との間に、前記厚さmの注出口栓Bの液切れ形状先端部13aが嵌合して固定されて施蓋されるものである。

【0034】〔第3の発明〕次に第3の発明は、図1に示すように、上記第1又は第2の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bは、その注出用筒部13に、その下部外周を取り巻く液垂れ防止用の外周リング部14を備えるものである。

【0035】また、オーバーキャップCの筒部21の下端には、必要に応じてフランジ部25を設けてある。

【0036】バッグ本体F内に充填された液体内容物を、注出口栓Bにて注出した際に、その筒部13の先端部に付着した液体が、該筒部13の外周を伝って落下して液垂れを生じたときに、その液垂れした液体は、筒部13と外周リング部14との間に受け止められて回収でき、バッグ本体Fの外表面が液垂れによって汚損することが防止できる。

【0037】そして、オーバーキャップCを、注出口栓Bに施蓋した際に、図3に示すように、前記オーバーキャップCの下端のフランジ部25は、前記リング部14の頂部に当接して停止する。

【0038】〔第4の発明〕次に第4の発明は、図1に示すように、上記第1乃至第3の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bは、その下部に形成した外筒部12の下部内面に、第1リング状リブ15と、その上部内面に第2リング状リブ16（上記第1、第2、第3の発明におけるリング状リブ16に相当）を備える。

【0039】第1リング状リブ15と第2リング状リブ16とを備えた注出口栓Bは、バッグ本体Fに接合されたスパウトAの上端に嵌合して一体化される際に、スパウトAの上端のリング状リブ3を、注出口栓Bの下部の内筒部11と外筒部12との間に嵌入させる。

【0040】まず、第1段階の嵌合一体化として、スパウトAのリング状リブ3を、注出口栓Bの第1リング状リブ15の上部まで差し込み嵌合固定して、図2に示すようにスパウトAと注出口栓Bとを一体化する。この第1段階の嵌合一体化は浅い差し込みによる仮嵌合である。

6

【0041】液体包装用容器として納入出荷する段階で、スリーパーツを予め嵌合一体化して出荷し、充填工程直前又は充填工程においてスパウトAより注出口栓Bを取り外す際に、前記浅い差し込みによる第1段階の嵌合一体化によって、取り外し易くなる。

【0042】そして、充填工程にて、注出口栓Bを取り外した後のスパウトAからの容器内への充填作業を終了した後においては、第2段階の嵌合一体化として、スパウトAのリング状リブ3を、注出口栓Bのリング状リブ16の上部まで差し込み嵌合固定して、図3に示すようにスパウトAと注出口栓Bとを一体化する。この第2段階の嵌合一体化は深い差し込みによる本嵌合であり、完全な密接状態で嵌合される。

【0043】〔第5の発明〕次に第5の発明は、図1に示すように、上記第1乃至第4の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記注出口栓Bの上部に形成された前記注出用筒部13の筒内に、ハーフカッティング部17aを介して連続して形成した、該注出用筒部13を封鎖するプルトップ17を備え、プルトップ17の片側の上面にプルリング18が連設されている。

【0044】前記プルリング18を引っ張り上げることにより、プルトップ17は、ハーフカッティング部17aから切断されて、注出口栓Bは開封される。

【0045】〔第6の発明〕次に第6の発明は、図1に示すように、上記第1乃至第5の発明の液体包装用容器の口栓であって、前記オーバーキャップCの天板部22の下面に、下向きに突出する密封用リング23を備えるものである。

【0046】オーバーキャップCを、注出口栓Bに施蓋した際に、図3に示すように、前記リング23は、その外周面が注出口栓Bの筒部13の内周面と密接して、密封状態に施蓋される。

【0047】

【発明の効果】本発明の液体包装用容器の口栓は、ポリエチレン、ポリプロピレンなど合成樹脂を用いて成形加工されたものであって、注出口栓の先端部に液切れを良好にした液切れ形状先端部を備え、また、注出口栓の先端部から容器の側面に液が液垂れしたとしても、注出口栓に液垂れを受け止めて回収するための回収機構を備えているため、口栓より下方への液垂れを防止でき、液垂れによる汚損の発生を軽減できる効果がある。

【0048】また、本発明の液体包装用容器の口栓は、その注出口栓の液切れ形状先端部の外周が所定の肉厚tを以て形成されているために、手指などを怪我する危険が回避できる効果がある。

【0049】また、本発明の液体包装用容器の口栓は、予め口栓部分のパーツを嵌合一体化した状態で納入出荷された液体包装用容器のスパウト部分から、充填作業工程において容易に素早くオーバーキャップ及び注出口栓を取り外しできるように工夫されているため充填作業能

7

率の向上に効果的である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の液体包装用容器の口栓の全体側断面図。

【図2】本発明の液体包装用容器の口栓において、スパウトと注出口栓とを第1段階の仮嵌合状態で一体化した状態を示す全体側断面図。

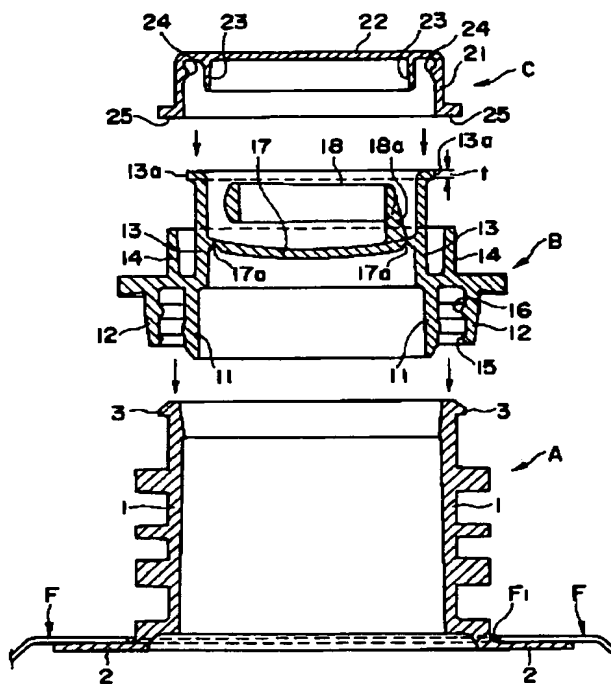
【図3】本発明の液体包装用容器の口栓において、スパウトと注出口栓とを第2段階の本嵌合状態で一体化した状態を示す全体側断面図。

【符号の説明】

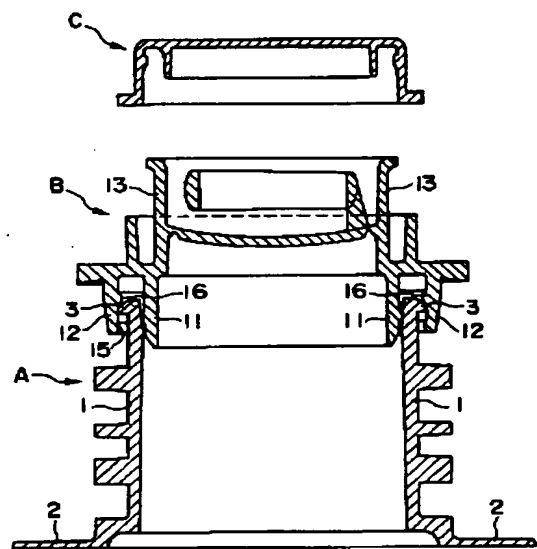
8

- A…スパウト B…注出口栓 C…オーバーキャップ
 1…筒部 2…接合フランジ部 3…リング状リブ
 11…下部内筒部 12…下部外筒部 13…上部筒部
 13a…液切れ形状先端部 14…外周リング部 15…第1リング状リブ
 16…第2リング状リブ 17…フルトップ 18…プルリング
 21…筒部 22…天板部 23…密封用リング部 24…リング状リブ
 25…フランジ部

【図1】



【図2】



【図3】

